

4 月	単元名	1 九九を見直そう (11時間)	
	目標	被乗数、乗数の一方または両方が0のときの乗法や、乗法について成り立つ性質やきまりなどの理解を深め、乗法を用いる能力をいっそう高める。	
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○乗数が1ずつ増減するときの乗数と積の変化の関係を理解する。 ○乗法の交換法則の理解を深める。 ○被乗数や乗数を分解しても積は変わらない乗法の性質を理解する。 ○被乗数か乗数が10のときの答えを、乗法について成り立つきまりを用いて求めることができる。 ○ $a \times \square = b$ 、 $\square \times a = b$ の \square の数を、九九を用いて求めることができる。 ○被乗数が10を超える場合でも、乗法のきまりや性質を用いて答えが求められることを理解する。	9	・乗数と積の関係や交換法則を使って問題を解決する。 ・被乗数や乗数を2つの数に分けて、 8×6 の答えの求め方を考える。 ・被乗数や乗数を分解しても積は変わらないことをまとめる。 ・10の段の答えを、累加の考えを用いて求め、九九表に記入する。 ・乗数が10のときの答えを、既習のかけ算のきまりを使って考える。 ・被乗数、または乗数が未知数の式で、九九を適用して未知数を求める。 ・ 12×4 の答えのいろいろな求め方について考え、話し合う。また、12の段や、13の段の答えを求める。 ◆自分の考えを図や式を使って考える活動。
	○被乗数、乗数の一方または両方が0のときの乗法計算をすることができる。	1	・場面をとらえ、被乗数や乗数が0の場合の乗法の式を考え、被乗数や乗数が0の場合もかけ算の式に表せること、答えは0になることを理解する。 ※0をかけることの意味をおさえる。
	○学習内容の理解を確認する。	1	・「しあげのもんだい」に取り組む。
	(関) 被乗数や乗数が0や10の場合にも進んで乗法を適用しようとする。 乗法について成り立つ性質やきまりに関心を持ち、進んでそれを見付けようとする。 (考) 乗法の性質や交換法則を用いて、被乗数や乗数が0や10の場合の計算の仕方を考えている。 (技) 被乗数や乗数が0や10の場合の乗法計算をすることができる。 (知) 乗数と積の変化の関係、交換法則や分配法則およびそれらを計算に用いる方法を理解している。		
4 月	単元名	2 時こくと時間の計算のしかたを考えよう (4時間)	
	目標	時刻や時間の概念について理解し、それらを用いる能力を身に付けるとともに、簡単な場合について時刻や時間を求める計算の仕方を理解する。	
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動

○ある時刻から一定時間前や後の時刻を求めることができる。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8時40分から30分後の時刻や10時10分から20分前の時刻を文字盤や数直線図を手がかりにして求める ※遠足など身近な生活に関わる問題の提示をする。 ◆文字盤や数直線図を使って考える活動。 ・ 10時40分から11時10分までの時間を、文字盤や数直線図を手がかりにして求める。 ・ 40分と30分を合わせた時間を求める。
○2つの時刻の間の時間や時間と時間の和や差を求めることができる。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1分より短い時間の表し方について考える。 ・ 時間の単位「秒」、1分=60秒の関係を理解する。
○学習内容の理解を確認する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「しあげのもんだい」に取り組む。
<p>(関)時計や時刻、時間に関心をもち、日常生活の中でも時刻や時間を正しく使い分けようとする。</p> <p>(考)時間も長さと同じように、量としてとらえ、その表し方や単位などについて考えている。</p> <p>(技)ある時刻から一定時間前後の時刻、ならびに2つの時刻の間の時間を求めることができている。</p> <p>(知)短い時間の単位「秒」、1分=60秒の関係、計算による時間や時刻の求め方を理解している。</p>		

5月	単元名	11 長さをはかろう (6時間)	
	目標	長いものの長さの測定を通して、長さの概念について理解を深めるとともに、目的に応じて単位や計器を適切に選択して測定する能力を身に付ける。	
	目 標	時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○巻尺の使い方とその有用性を理解する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 走り幅とびでとんだ長さをはかるにはどうすればよいか考える。 ・ 長いものの長さをはかるには、巻尺を使うと便利なことを知り、いろいろな物の長さをはかる。 ※巻尺の使い方、目盛りの読み方をおさえる。 ◆以下の活動に取り組む。 ・ 巻尺を使って走り幅跳びの世界記録の長さを体感する活動 ・ 教室の長さを巻尺を使ってはかる活動 ・ 長さの見当をつけてからいろいろなものの長さを巻尺ではかる活動 ・ 10mを予測して、その長さを実際にはかる活動を通して量感を養う活動
	○長さを表す単位「キロメートル(km)」および道のりや距離の意味を理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「道のり」の意味を知り、絵地図を見て道のりを調べる。 ・ 長い道のりや距離を表す単位「キロメートル(km)」を知る。 ・ 「きょり」の意味を知る。
	○学習内容の理解を確認する。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「しあげのもんだい」に取り組む。
	<p>(関)身の回りの長いものの長さに関心をもち、進んで測定対象の長さを測定しようとする。</p> <p>(考)長いものやまるいものの長さを測定する計器や上位単位の必要性に気付き、既習の内容をもとに測定の仕方について考えている。</p> <p>(技)適切な計器を用いて長さを測定することができている。</p> <p>(知)距離と道のりの意味や求め方を理解する。また、1km=1000mの単位の関係を理解している。</p>		

単元名		3 新しい計算を考えよう (11時間)	
5 月	目標 除法の意味について理解し、それをを用いる能力を身に付ける。		
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○等分除の意味を理解する。 ○除法に関する用語、記号を理解する。	3	・教科書の絵から、等分の意味をとらえる。 ・12個のクッキーを3人で等分すると1人分は何個になるかを、半具体物を操作して調べる。 ◆具体物、半具体物だけでなく、絵や図、かけ算の式などで考えを説明する活動。 ・操作結果を $12 \div 3 = 4$ と式に表すこと、用語「わり算」を知る。 ※除法が用いられる場面を除法の式と関連付けておさえる。
	○等分除の答えの見付け方を理解する。		・ $20 \div 5$ の答えを半具体物を使わずに見付ける方法を考え、 $\square \times 5 = 20$ の式から除数の段の九九を使うと答えが見付けられることをまとめる。
	○包含除の意味を理解する。 ○包含除の答えの見付け方を理解する。 ○等分除と包含除は、「わり算」として統合できることを理解し、除法計算の答えを求めることができる。 ○被除数が0の場合や被除数と除数が同じ数値の場合のわり算ができる。	5	・12個のパイを1人に3個ずつ分けると何人に分けられるか半具体物を操作して調べ、操作結果を $12 \div 3 = 4$ と除法の式に表すことを理解する。 ・用語「わられる数」「わる数」の意味を知る。 ・ $20 \div 5$ の答えを半具体物を使わずに見付ける方法を考え、 $5 \times \square = 20$ の式から除数の段の九九を使うと答えが見付けられることをまとめる。 ・ $6 \div 2$ の式になる問題をつくる。また、等分除と包含除の問題を比べる。 ・等分除の問題場面で、クッキーが8個、4個のときを順に考え、1個もないときは何個になるかを考える。 ・クッキーが1個もないときも $0 \div 4 = 0$ と除法の式に書くことを理解する。
	○ある数がもとにする大きさの何倍かを求める場合にも除法が用いられることを理解する。	1	・36mが9mの何倍かを求めるのにはどんな計算をすればよいか考える。 ・何倍かを求めるには除法を使えることをまとめる。
	○学習内容を確実に身に付ける。 ○学習内容の理解を確認する。	2	・「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・「しあげのもんだい」に取り組む。
<p>(関)身の回りから除法で表される事象を探したり、数量関係を除法の式に表そうとしたりする。</p> <p>(考)等分除と包含除を除法として統合的にとらえている。</p> <p>(技)除法が用いられる場合(等分除、包含除)を式で表すことや乗法九九を用いて答えを求めることができている。</p> <p>(知)除法が用いられる場合(等分除、包含除)、および除法の答えは乗法九九を用いて求められることを理解している。</p>			

【授業における評価計画例】

第1次第1、2時

○授業の概略

*等分操作を除法の式と関連付けて考える。

*自分なりの方法で、答えを求める。

○評価の観点および評価規準

<数学的な考え方> 自分なりの方法で、等分した時の一人分の求め方を考

●各学校の評価の基準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

絵や図、かけ算などを使って、一人分の求め方を何通りも考えている。

B おおむね満足できると判断されるもの

半具体物などを使って、1人分の求め方を考えている。

●評価の方法と視点

*自力解決時におけるノートの記述を読み取る場面を把握し、絵や図、式を使って考えているか。

*発表検討時における発言の様子と聞きとる姿より良い方法を見出しているか。

6	単元名	5 大きい数の計算を考えよう (9時間(10時間))	
月	目標 3～4位数の加減計算の筆算の仕方について理解し、それを用いる能力を高める。		
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○3位数+3位数の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・場面をとらえ、立式について考える。 ◆既習をもとに、$365+472$の筆算の仕方を考える活動。 ※数が大きくなっても、計算の仕方は変わらないことをおさえる。 ・筆算の仕方(繰り上がりなし、一の位または十の位で繰り上がりあり)をまとめる。 ・$347+178$、$475+781$の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方(一、十の位で繰り上がりあり、十の位で波及的繰り上がりあり、百の位で繰り上がりあり)をまとめる。
	○3位数-3位数の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・場面をとらえ、立式について考える。 ・既習をもとに、$315-194$の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方(繰り下がりなし、一の位または十の位へ繰り下がりあり、一の位および十の位へ繰り下がりあり)をまとめる。
	○4位数を含む加減計算の仕方を理解し、その計算をすることができる。 ○4位数±4位数の計算の仕方を確実に身に付ける。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・$2483+7156$、$7156-2483$の計算の仕方を考える。 ・5102 ± 4398の計算の仕方を考える。 ・4位数±4位数などの型の計算をして、数が大きくなっても加減筆算の仕方は変わらないことがわかる。
	○学習内容を確実に身に付ける。 ○学習内容の理解を確認する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・「しあげのもんだい」に取り組む。
<p>(関)数のしくみに着目したり既習の計算方法を活用したりして、筆算形式による3～4位数の加減計算の方法を考えようとする。</p> <p>(考)3～4位数の加減計算の筆算の仕方を、2～3位数の加減計算をもとに発展的に考えている。</p> <p>(技)3～4位数の加減計算を筆算ですることができている。</p> <p>(知)3～4位数の加減計算の筆算の仕方を理解している。</p>			

単元名		6 計算のしかたをくふうしよう (2時間)	
6 月	目標 2位数どうしの加法、減法の暗算の仕方を理解するとともに、その暗算の能力を身に付ける。		
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○2位数どうしの加法の暗算の仕方を理解し、その暗算をすることができる。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・$48+36$の計算を暗算でする方法をいろいろ考え、発表、検討する。 ◆暗算でする方法をいろいろ考える活動。 ※およその数で見える見方をおさえる。 ・絵を見て、100円でどんなものが買えるか暗算をして考える。
	○2位数どうしの減法の暗算の仕方を理解し、その暗算をすることができる。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・$53-36$の計算を暗算でする様々な方法を考え、発表、検討する。 ・絵を見て2つの品物を選び、値段の違いを暗算で計算する。
<p>(関)2位数どうしの加法、減法の暗算の仕方を何通りかの方法で考え出そうとする。</p> <p>(考)被加数や加数、被減数や減数を適切に分解したり合成したりして、答えの求め方を考えている。</p> <p>(技)2位数どうしの加法、減法を暗算ですることができている。</p> <p>(知)2位数どうしの加法、減法の暗算の仕方を理解している。</p>			
単元名		7 わり算を考えよう (10時間)	
7 月	目標 乗法九九を1回適用してできる除法で、あまりのある場合の計算の仕方について理解するとともに、それをを用いる能力を身に付ける。		
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○乗法九九を1回適用してできる除法で、あまりのある場合の計算方法を理解する。 ○あまりと除数の関係を理解する。	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼリー12個、15個、14個を3個ずつ分けたとき何人に分けられるかを考える。 ◆絵や図などを使って計算の仕方を考える活動。 ・$14\div3$の答えの見付け方を考え、「あまり」の意味を理解する。 ※絵や図と式とを関連させ、あまりの意味をおさえる。 ・$13\div4$の計算についてあまりと除数の関係を調べる。 ・あまりのある場合を含む除法の答えの確かめ方を考える。また、計算練習と答えの確かめをする。
	○あまりのある場合の除法計算について、答えの確かめ方を理解する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・題意をとらえ、$23\div4$と立式し、計算して答えを求め、計算では5あまり2だが、答えは商+1になることを話し合い、理解する。
	○あまりのとらえ方について理解を深める。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・「しあげのもんだい」に取り組む。
○学習内容を確実に身に付ける。 ○学習内容の理解を確認する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・「しあげのもんだい」に取り組む。 	

	<p>(関)余りのある除法計算を、余りのない除法計算の時と同様に進んで問題解決に活用しようとする。</p> <p>(考)既習の除法と関連づけて、余りのある場合の除法でも乗法九九を使って答えが求められることを筋道立てて説明している。</p> <p>(技)余りのある除法計算ができ、答えの確かめをすることができている。</p> <p>(知)「あまり」の意味、あまりと除数の大小関係、あまりのある除法計算の仕方を理解している。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

9	単元名	8 10000より大きい数を調べよう (10時間(11時間))
月	<p>目標 千万の位までの整数について、その表し方や構成を理解し、数の概念についての理解を深める。等号、不等号の意味、および一億の構成、数の読み方、書き方を理解する。</p>	
	目 標	時
	<p>○一万の位までの数の読み方、書き方、構成を理解する。</p> <p>○十万、百万、千万の数のしくみと千万の位までの読み方、書き方、構成を理解する。</p> <p>○数の相対的な大きさについて理解する。</p> <p>○数の系列、順序、大小についての理解を深める。</p> <p>○用語「等号」「不等号」「数直線」を理解する。</p> <p>○100000000の構成、数の読み方、書き方を理解する。</p>	7
	<p>○整数を10倍した数の表し方を理解する。</p> <p>○整数を100倍した数、10でわった数の表し方を理解する。</p> <p>○学習内容の理解を確認する。</p>	2 1
		<p>・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動</p> <p>・絵を見て、入場券の枚数を数え、数字で表す。</p> <p>◆10、100、1000のまとまりで数える活動。</p> <p>・24153の数構成と命数法をまとめ、用語「一万の位」を知る。</p> <p>・一万を10こ集めた数を「十万」といい、「100000」と書くことを理解する。</p> <p>・一万から千万の数の表し方のしくみを考え、それぞれ10こ分の関係になっていることをまとめる。</p> <p>※十進位取り記数法についておさえる。</p> <p>・一万の位の左から順に「十万の位、百万の位、千万の位」ということを知る。</p> <p>・14000は1000を何こ集めた数かを考える。</p> <p>・数直線に表された数を読んだり、数を数直線に表したりする。</p> <p>・用語「等号」「不等号」を使って式に表す。</p> <p>・用語「数直線」を知る。</p> <p>・千万を10こ集めた数を「一億」といい、「100000000」と書くことを知る。</p> <p>・20の10倍の数を考え、もとの数と10倍した数の並び方を比べる。また、25の10倍の数を考える。</p> <p>・25の10倍を10倍した数や200を10でわった数を考える。もとの数と10でわった数の並び方を考える。</p> <p>・「しあげのもんだい」に取り組む。</p>

	<p>(関) 千万の位までの大きな数に関心をもち、進んで数を書いたり読んだりしようとする。</p> <p>(考) 千万の位までの数の表し方を、既習の一万までの数のしくみ（十進位取り記数法）から類推して考えている。</p> <p>(技) 千万の位までの数を読んだり書き表したりすることができる。数や式の大小関係を等号や不等号を用いて式に表すことができている。</p> <p>(知) 千万の位までの数について、その表し方のしくみや数の系列、順序、大小などを理解している。等号、不等号の意味、および一億の構成、数の読み方、書き方を理解している。</p>		
9	単元名	7 かけ算のしかたを考えよう (12時間)	
月	目標 2位数や3位数に1位数をかける乗法の筆算の仕方について理解し、それを用いる能力を高める。		
10	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
月	○何十、何百に1位数をかける乗法計算の仕方を理解し、その計算をすることができる。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・20×3の計算の仕方を考える。 ・300×5の計算の仕方を考える。 ※テープ図や数直線、言葉の式などで演算決定をすることをおさえる。
	○2位数×1位数（部分積がみな1桁）の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。	5	◆絵や図、数直線などを使って、計算の仕方を考える活動。 <ul style="list-style-type: none"> ・場面を見て、立式について考え、23×3の計算の仕方を、アレイ図や模擬貨幣を使ったり数操作をしたりして考え、答えを求める。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・1辺16cmの正方形の周長を求める式を考え、その計算を筆算で考える。
	○1位数×1位数（一の位の数との部分積が2桁）の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。		
	○2位数×1位数（十の位の数との部分積が2けた、および部分積がみな2桁）の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。		<ul style="list-style-type: none"> ・42×3、58×3の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。
	○2位数×1位数（部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。		<ul style="list-style-type: none"> ・29×4や75×4の筆算の仕方を考える。

<p>○3位数×1位数（部分積がみな1桁）の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。</p> <p>○3位数×1位数（一、十の位の数との部分積が2桁）の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。</p> <p>○3位数×1位数（部分積がみな2桁、および部分積を加えたときに繰り上がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。</p> <p>○3位数×1位数の筆算の理解を確実にする。</p> <p>○乗法の結合法則について理解するとともに、3つの数の乗法が1つの式に表せることを理解する。</p> <p>○ある数の何倍かからもとにする大きさを求める場合にも乗法が用いられることを理解する。</p>	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場面をとらえて立式し、312×3の計算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・386×2の筆算の仕方を考える。 ・937×4の筆算の仕方を考える。 ・場面をとらえ、代金の求め方について考え、検討する。 ・場面を3口の乗法の式で表す。 ・3口の乗法の結合法則をまとめる。
<p>(関)2～3位数×1位数の筆算の仕方を、既習の乗法計算の仕方をもとに考えようとする。</p> <p>(考)2～3位数×1位数の筆算の仕方を、数の構成や十進位取り記数法をもとに考えている。</p> <p>(技)2～3位数×1位数の計算を筆算ですることできている。また、乗法の結合法則を計算に用いることができている。</p> <p>(知)2～3位数×1位数の筆算の仕方を理解する。また、乗法の結合法則を理解している。</p>		
<p>10月</p>	<p>単元名</p>	<p>10 大きい数のわり算を考えよう (2時間)</p>
<p>目標 2位数÷1位数で各位でわり切れる除法の計算の仕方について理解し、それを用いる能力を高める。</p>		
<p>目 標</p>		<p>時</p> <p>・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動</p>
<p>○簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方を理解し、その計算ができる。</p>	<p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・$90 \div 3$の計算の仕方を、90を10の9こ分にとらえて既習の計算を使って考える。 ※テープ図や数直線、言葉の式などで演算決定をすることをおさえる。 ◆絵や図、数直線などを使って、計算の仕方を考える活動。 ・$96 \div 3$の計算の仕方を、96を90と6に分けて考える。
<p>(関)簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方を、既習の除法計算の仕方をもとに考えようとする。</p> <p>(考)簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方を、被除数を10を単位として相対的にとらえて考える。</p> <p>(技)簡単な場合の2位数÷1位数の計算ができている。</p> <p>(知)簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方を理解している。</p>		

10	単元名	12 はしたの大きさの表し方を考えよう (12時間)	
月	目標	小数の意味とその表し方について理解するとともに、小数の加法、減法の意味について理解し、それらを適切に用いる能力を高める。	
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○単位量に満たないはしたの大きさを表すのに小数が用いられることを理解する。 ○長さ (cm) の場合にも小数を用いて表すことができることを理解する。 ○小数を用いると単名数で表すことができることを理解する。	3	・水を1Lのますではかったときの1Lに満たないはしたのかさの表し方を考える。 ※端数部分の大きさを表すのに小数を用いることをおさえる。 ・1Lを10等分した1こ分のかさを「0.1L」ということを知り、はしたのかさは0.1Lの3こ分で0.3Lで、1Lとあわせて1.3Lになることを知る。 ・前時の学習をふり返りながら、小数を使ってはしたの大きさを表す。 ・「小数」「小数点」「整数」の意味を知る。 ・8cm7mmのテープの長さをcm単位で表すことを考え、長さやかさの量について、小数を使った単名数での表し方を考える。
	○小数も数直線に表せることを理解する。 ○「小数第一位」の用語を知る。 ○小数の大小について理解する。	2	・数直線に表された小数を読んだり、数直線に小数を表したりする。また、「小数第一位」の用語を知る。 ※絵や図と数直線とを関連付けて、数直線で表すことをおさえる。 ・小数の位取りについて考えたり、数直線を使って、小数と整数の大小を考えたりする。
	○簡単な場合の小数の加減計算の仕方を理解する。 ○1/10の位までの小数の加減法の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。	4	・場面をとらえ、立式について考える。 ・整数の場合と同じように、位の数字に着目すればよいことを理解する。 ◆絵や図、数直線などを使って計算の仕方を考え説明する活動 ※0.5+0.3や0.4+0.7の計算の仕方を、0.1を単位として考えるようにおさえる。 ・場面をとらえ、立式について考える。 ・前時の学習を使って、0.8-0.3や1.4-0.6の計算の仕方を考える。
	○小数についても、いろいろな見方や表し方ができることを理解する。	1	・1.8について、数直線などを使って色々な表し方を考える。 また、友達の考えを読み取り、式や数直線に表す。
	○学習内容を確実に身に付ける。 ○学習内容の理解を確認する。	2	・「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・「しあげのもんだい」に取り組む。

(関) 小数を用いると、単位量に満たない端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさを表せるよさに
 気付き、進んでこれを用いようとする。
 (考) 小数も整数と同じ十進構造になっていることをとらえている。
 単位とする数に着目すれば、小数の加減計算も整数の加減計算と同じ考え方でできることを筋道道立
 てて説明できている。
 (技) 端数部分の大きさを十進位取り記数法に基づいて、小数を使って表すことができている。1/10
 の位ま
 での小数の加減計算をすることができている。
 (知) 小数の意味や表し方、加減計算の仕方を理解している。

1	単元名	18 重さをはかろう (8時間)	
1	目標	重さの比較などを通して重さの概念や測定、及び単位について理解するとともに、それを用いる能力を身に付ける。	
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○重さの概念や単位の必要性について理解する。 ○重さを表す単位「グラム(g)」について理解する。	2	・どちらがどれだけ重いかを調べる方法を考える。 ・適当な任意単位を使って比べる。 ・重さの単位「グラム(g)」を知る。 ◆身の回りから10gの重さだと思うものを探して、量感を養う活動
	○重さを測定する計器としてはかりがあることを知り、目盛りの読み方を理解する。 ○はかりの使い方を理解する。 ○重さを表す単位「キログラム(kg)」、1kg=1000g の関係を理解する。 ○重さの量感を養うとともに、はかりを用いて重さを正しく測定することができる。 ○正味、風袋、全体の重さの関係を知り、それを用いて問題を解決することを通して、重さの加法性を理解する。 ○いろいろな種類のはかりとその用途を知る。	5	・重さとはかりの針の動き方の関係をとらえる。 ※はかりの使い方、目盛りの読み方をおさえる。 ・はかりを使う際の留意事項を理解する。 ・秤量1kgのはかりの目盛りの読み方を調べて、目盛りを読み、重さの単位「キログラム(kg)」、1kg=1000gの関係を理解する。 ・秤量4kg、2kgのはかりの目盛りを読む。 ◆身の回りのものの重さを見当をつけてから測定する活動 ・バナナ1本の重さと皮の重さから、バナナの中身の重さを求める。 ◆身の回りで用いられているいろいろなはかりを探し、その用途を調べる活動
	○学習内容の理解を確認する。	1	・「しあげのもんだい」に取り組む。
	(関) 重さの測定の仕方や単位の関係について、長さやかさの学習をもとに考えようとする。 (考) 長さやかさの学習経験を生かして、数値化することのよさや普遍単位の必要性を認め、重さの比べ方や表し 方を考えている。 (技) はかりを使って重さを測定できるとともに、適切に見積もることができている。 (知) 重さの単位やその関係を理解する。はかりの目盛りの読み方やはかりの使い方を理解している。 重さの単位「トン(t)」の意味を理解している。		

【授業における評価計画例】

第1次第1、2時

○授業の概略

*何がどれだけ重いのか調べるには、どのようにすればよいのかを考える。

*長さやかさの学習を思い出して、重さを比べる方法を考える。

*重さの単位を知る。

○評価の観点及び評価規準

<数学的な考え方> 重さも長さやかさと同じように、単位を決めて、数値で表せることができる

●各学校の評価の基準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

重さも長さやかさと同じように、基準の単位を決めることで重さを比べられると考え、その数で重さを比べている。

B おおむね満足できると判断されるもの

手に持って比べるなど、重さを比べる方法を考えている。

●評価の方法と視点

*自力解決時におけるノートの記述や活動の姿

既習事項を活用して物の重さ比べの方法を考えているか。

*発表検討時における発言の様子と聞きとる姿

いくつかの方法の中から、よい方法を見付けようとしているか。

11月	単元名	4 まるい形を調べよう (9時間 (10時間))	
	目標	円や球の概念や性質を理解し、それらを構成したり用いたりする能力を身に付ける。	
	○円の概念や中心、半径の用語の意味や性質を理解する。	5	<ul style="list-style-type: none"> 正方形の折り紙に円をかく方法を考える。 ◆折り目の交点から等距離にある点をたくさん見付け、目印を書く活動 ※折り目の交点から等距離にある点を結ぶと円になることをおさえる。 まるい形を「円」ということ、および「中心」「半径」の意味を知る。 1つの円に半径をたくさんひいて、どれも同じ長さであることを理解する。 切り抜いた円の中心の見付け方を考え、「直径」の意味を知る。 直径の長さは半径の長さの2倍であることを理解する。 円をかくにはコンパスを使うと便利であることを知り、コンパスの使い方に注意して、指定された半径の円をかく。 コンパスを使って、模様づくりに取り組む。 直線と折れ線の長さを比較する方法を考える。 コンパスは長さを写し取るのに使えることを知り、長さの比較に用いる。
	○直径の意味や直径と半径の関係を理解する		
	○コンパスを使って、円をかくことができる。		
	○コンパスには長さを写し取る機能があることを理解する。		
	○球の概念とその性質を理解する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ボールなどの具体物を真上や真横から観察し、「球」の概念を理解する。 球の切り口の形を調べることを通して、球の中心、半径、直径を理解する。 ◆色々な球の形をしたものの直径の長さをはかる活動
	○球の形をしたものの直径の長さのはかり方を知る。		
	○学習内容を確実に身に付ける。	2	<ul style="list-style-type: none"> 「力をつけるもんだい」に取り組む。 「しあげのもんだい」に取り組む。
	○学習内容の理解を確認する。		

(関)円や球の美しさに関心をもち、身の回りからそれらの図形を進んで探そうとする。
 (考)円は中心の位置と半径の長さによって決まる事をもとに、円の性質や機能について考えている。
 球を平面で切った切り口が円になることから、球の概念を円と関連づけてとらえている。
 (技)コンパスで、指定された大きさの円をかいたり、長さを写し取ったりすることができている。
 (知)円や球の概念および中心、半径、直径の意味や性質などを理解している。

12月	単元名	14 分けた大きさの表し方を考えよう (10時間(11時間))	
	目標	分数の意味とその表し方について理解するとともに、端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを表すときに分数を適切に用いる能力を身に付ける。	
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○単位量を何等分かした1こ分の大きさを分数で表すことを理解する。 ○端数部分の大きさを表す分数は、等分してできた単位の大きさの何こ分で表せることを理解する。 ○液量について、端数部分の大きさを分数で表せることを理解する。 ○「分数」「分母」「分子」の用語の意味を理解する。	4	・1mのテープを3等分した1こ分の長さの表し方を考え、その長さを1mの「三分の一」といい、「 $1/3m$ 」と書くことを理解する。 ※端数部分の大きさを表すのに分数を用いることをおさえる。 ・1mのテープを等分した2こ分の長さの表し方を考える。その長さを1mの「三分の二」といい、「 $2/3m$ 」と書くことを理解する。 ・1Lを5等分した2こ分のかさの表し方を考える。 ・1Lを3等分した2こ分、7等分した5こ分などのかさの表し方を考える。 ・「分数」「分母」「分子」の意味を知る。
	○分数も数直線に表せることを理解するとともに、分数の構成や大小について理解する。 ○単位量の大きさも分数で表せることを理解する。 ○分母が10の分数と小数の関係を理解する。 ○「1/10の位」について知る。	3	※絵や図と数直線とを関連付けて、数直線で表すことをおさえる。 ・ $1/5m$ の2こ分、3こ分、4こ分の長さは何mか考える。 ・ $5/5m$ は1mと同じ大きさであることを理解する。 ・ $4/5m$ と $3/5m$ の長さを比べる。 ・ $1/5m$ の6こ分、7こ分、…の長さは何mか考える。 ・ $10/5m$ は2mと同じ大きさであることを理解する。 ・ $7/5m$ と $9/5m$ の長さを比べる。 ・1/10を単位とした数直線をもとに分数の大きさや、分数と小数の関係について考え、 $1/10=0.1$ であることを理解する。 ・小数第一位を「1/10の位」ということを知る。
	○分数も整数と同じようにたし算やひき算ができることを理解する。	2	・ $3/10$ と $2/10$ でたし算ができるか考える。 ◆絵や図、数直線などを使って計算の仕方を考え説明する活動 ※小数に置き換えてもできることを確かめ、1/10の何こ分で考えればよいことをおさえる。 ・ $4/5$ と $1/5$ でひき算ができるか考え、前時の学習を生かして、1/5の何こ分で考えれば整数と同じように計算できることを理解する。
	○学習内容の理解を確認する。	1	・「しあげのmondai」に取り組む。

	<p>(関)分数を用いると、端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを表せるよさに気づき、進んで生活に生かそうとする。</p> <p>(考)分数は単位量を何等分かした1こ分を単位として、その何こ分で表すことを筋道立てて説明できている。</p> <p>(技)端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを分数を用いて表すことができている。</p> <p>(知)分数の意味や表し方、加法性が成り立つことを理解している。</p>	
1	単元名	15 □を使った式に表わそう (3時間)
月	<p>目標 未知数を□として数量の関係を式に表すことよさを知り、□を用いて問題を解決する能力を高める。</p>	
	目 標	時
	○未知数があっても□を用いると、文章どおりに式に表すことができることを理解する。	<p>・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動</p> <p>・お話にしたがって、未知数を□としてひき算やかけ算の式に表す。</p> <p>◆お話にしたがって、未知数を□として、たし算の式に表す活動</p> <p>※□を未知数として表す記号であることをおさえる。</p> <p>・表した式について、テープ図や数直線図を使ってお話場面と対応し、確認する。</p>
	<p>(関)未知数を□として表した式よさに気づき、問題解決に進んで用いようとする。</p> <p>(考)式を数量の関係や場面を簡潔に表すものとしてとらえることができている。</p> <p>(技)未知数を□として問題の場面を加減法や乗法の式に表すことができている。</p> <p>(知)未知数を□とすると文章どおりに式に表すことができることを理解している。</p>	
1	単元名	16 かけ算の筆算を考えよう (11時間(12時間))
月	<p>目標 2～3位数×2位数の筆算の仕方について理解し、それを用いる能力を高める。</p>	
	目 標	時
	<p>○1 位数×何十の計算の仕方を理解し、その計算をすることができる。</p> <p>○2 位数×何十の計算の仕方を理解し、その計算をすることができる。</p>	<p>・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動</p> <p>・場面をとらえ、立式について考える。</p> <p>・5×30の計算の仕方を考える。</p> <p>※テープ図や数直線、言葉の式などで演算決定をすることをおさえる。</p> <p>◆絵や図、数直線などを使って、計算の仕方を考える活動</p> <p>・1位数×何十、2位数×何十の計算をする。</p>

<p>○2 位数×2 位数（部分積がみな 2 けたで繰り上がりなし、繰り上がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。</p> <p>○2 位数×2 位数（部分積が 2, 3 けたで繰り上がりなし、あり）の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。</p> <p>○2位数×2位数（乗数の末尾に0がある）の簡便な計算の仕方、および筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。</p> <p>○乗法の交換法則を活用すれば、簡単に計算できることを理解し、その計算をすることができる。</p>	6	<ul style="list-style-type: none"> ・12×32の計算の仕方を考える。 ・2位数×何十の計算をする。 ・場面をとらえ、立式について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・12×23の計算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・58×46の筆算の仕方を考える。 ・23×26、24×83、36×47などの計算を筆算でする。 ・86×30の簡便な筆算の方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・3×46の筆算と46×3の筆算を比べてどちらが簡単か考える。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・173×24の筆算の仕方を、既習の筆算をもとに考え、桁数が増えても、既習の筆算と同じように計算できることを理解する。 ・703×25など空位のある場合の筆算の仕方を考える。 ・乗法の筆算を練習する。 	
	<p>○2 位数×1 位数の暗算とこれに帰着できる暗算の仕方を理解し、その暗算をすることができる。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・25×3の暗算の仕方を考える。 ・3×25の暗算の仕方を考える。 ・250×3の暗算の仕方を考える。
	<p>○学習内容を確実に身に付ける。</p> <p>○学習内容の理解を確認する。</p>	2 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・「しあげのもんだい」に取り組む。
<p>(関)2～3位数×2位数の筆算の仕方を、既習の乗法の筆算の仕方と関連付けて考えようとする。</p> <p>(考)2～3位数×2位数の計算の仕方や筆算の仕方を、数の構成や十進位取り記数法をもとに乗法九九に帰着して考えている。</p> <p>(技)2～3位数×2位数の計算を筆算ですることができている。</p> <p>2位数×1位数、およびこれに帰着できる乗法を暗算ですることができている。</p> <p>(知)2～3 位数×2 位数の計算の仕方や筆算の仕方を理解する。2 位数×1 位数、およびこれに帰着できる乗法の暗算の仕方を理解している。</p>			

2 ～ 3 月	単元名	1 3 三角形のなかまを調べよう (9時間(10時間))	
	目標	二等辺三角形や正三角形の概念や性質について理解し、それを構成したり用いたりする能力を伸ばす。	
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○いろいろな三角形の中から、辺の長さに着目して三角形を弁別することができる。	4	・円周上の等間隔の点を結んで、いろいろな三角形をつくり、できた三角形を辺の長さに着目して分類する。

<p>○二等辺三角形と正三角形の定義を理解し、これらを弁別することができる。</p> <p>○二等辺三角形のかき方を理解し、指定された二等辺三角形を作図することができる。</p> <p>○正三角形のかき方を理解し、指定された正三角形を作図することができる。</p>		<p>※「二等辺三角形」「正三角形」の定義をおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な三角形の中から、二等辺三角形や正三角形を弁別する。 <p>◆定規とコンパスを用いて、作図する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・底辺が3 cmで2つの辺が4 cmの二等辺三角形のかき方を考え、コンパスと定規を用いて、二等辺三角形を作図する。 ・二等辺三角形の作図練習をする。 ・3辺が4 cmの正三角形のかき方を考え、コンパスと定規を用いて、その正三角形を作図する。 ・正三角形の作図練習をする。 ・円の半径を使って、正三角形も含めた二等辺三角形の作図練習をする。 		
<p>○形としての角の概念を理解し、角の大きさを比べることができる。</p> <p>○二等辺三角形や正三角形の角の性質を理解する。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・三角定規のかどの形を調べて、それぞれの角の大きさを比べ、「角」の概念を理解する。 ・角の大きさは辺の長さに関係がないことを理解する。 ・二等辺三角形と正三角形の、それぞれの3つの角の大きさを比べる。 ・二等辺三角形、正三角形の角の性質をまとめる。 ・三角定規2枚で三角形を構成しながら、二等辺三角形と正三角形の性質の理解を深める。 <p>※「二等辺三角形」「正三角形」の構成要素をおさえる。</p>		
<p>○学習内容の理解を確認する。</p> <p>(関)二等辺三角形や正三角形の性質や美しさに気づき、身の回りから三角形を見付けようとしている。</p> <p>(考)辺の長さや角の大きさに着目して、三角形の性質などを見出している。</p> <p>(技)定義や性質に基づいて二等辺三角形や正三角形を正確に作図することができる。</p> <p>(知)角について知り、二等辺三角形や正三角形の定義、性質を理解している。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「しあげのもんだい」に取り組む。 		
<p>【授業における評価計画例】</p> <p>第1次第1時</p> <p>○授業の概略</p> <ul style="list-style-type: none"> * 三角形を弁別する観点を考える。 * 辺の長さに着目して三角形を弁別する。 				
<p>○評価の観点および評価規準</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>< 数学的な考え方 > 三角形を辺の長さをもとにして、弁別する。</p> </div> <p>●各学校の評価の基準になる児童の姿の例</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A 十分満足できると判断されるもの</p> <p>辺の長さをもとにして仲間わけをし、仲間わけの理由を言葉で説明できる。</p> </td> <td style="width: 50%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>B おおむね満足できると判断されるもの</p> <p>辺の長さをもとにして仲間わけをしてい</p> </td> </tr> </table> <p>●評価の方法と視点</p> <ul style="list-style-type: none"> * 三角形を弁別する活動を観察する 辺の長さに着目して、弁別しているか。 * ノートの記述の内容 弁別の理由が書けているか。 			<p>A 十分満足できると判断されるもの</p> <p>辺の長さをもとにして仲間わけをし、仲間わけの理由を言葉で説明できる。</p>	<p>B おおむね満足できると判断されるもの</p> <p>辺の長さをもとにして仲間わけをしてい</p>
<p>A 十分満足できると判断されるもの</p> <p>辺の長さをもとにして仲間わけをし、仲間わけの理由を言葉で説明できる。</p>	<p>B おおむね満足できると判断されるもの</p> <p>辺の長さをもとにして仲間わけをしてい</p>			
3	単元名	17 見やすくして表そう (9時間)		
月	目標 資料を分類整理して表や棒グラフに表したり、それらを読んだりする能力を身に付ける。			
	目 標	時 ・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動		

○資料を分類整理する要領や整理、結果を表にまとめる方法を理解する。	2	<p>※表にまとめるとわかりやすくなることをおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きなスポーツの種類別の数を「正」の字を使って整理、結果を表に表し、「その他」や「合計」の意味を理解する。 <p>※落ちや重なりがないように整理することをおさえる。</p> <p>◆スポーツの名前などの観点から、資料を分類整理し、表を用いて表す活動</p>
○資料を棒グラフに表すことを知り、その読み方や有用性について理解する。	5	<ul style="list-style-type: none"> 表と棒グラフや、2つの棒グラフを比べたりしながら、棒グラフについて調べる。 <p>※棒グラフを使うと、数量の大きさの違いを一目でとらえることができることをおさえる。</p>
<p>○数量が横軸に表されている棒グラフを読み取ることができる。</p> <p>○棒グラフの読み取り方の理解を深める。</p> <p>○棒グラフのかき方を理解する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 項目のとり方を変えたグラフを比べる。 数量が横軸に表された棒グラフを読む。 1目盛りの大きさや、項目の順序などについて考える。 1目盛りの大きさをとらえる。 棒グラフからいろいろな事項を読み取る。 好きな果物の数を整理した表を見て、棒グラフに表す方法を考え、項目のとり方、1目盛りの大きさなどの順に従ってグラフをかく。
○一次元表を組み合わせた簡単な二次元表を読むことができ、その有用性を理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> 3か月のけがの種類と人数をまとめた3つの一次元表を読む。 3つの表をまとめた二次元表に数を書き入れた後、この表を読み、二次元表の有用性を考える。
○学習内容の理解を確認する。	1	<ul style="list-style-type: none"> 「しあげのもんだい」に取り組む。
<p>(関)資料を目的に応じた観点で落ちや重なりなく分類整理し、進んで表や棒グラフに表そうとする。</p> <p>(考)資料を分類整理する目的に応じて観点を考えている。</p> <p>(技)資料を分類整理して表（一次元表、簡単な二次元表）や棒グラフに表すことができている。</p> <p>表や棒グラフから数量をとらえたり、数量間の関係を読み取ったりすることができている。</p> <p>(知)表（一次元表、簡単な二次元表）の作り方や棒グラフの読み取り方、かき方を理解している。</p>		
<p>【授業における評価計画例】</p> <p>第1次第3時</p> <p>○授業の概略</p> <p>*表と棒グラフや、2つの棒グラフを比べたりしながら、棒グラフについて調べる。</p> <p>*項目のとり方を変えたグラフを比べる。</p> <p>○評価の観点及び評価規準</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><表現・処理>棒グラフから数量や数量間の関係を読み取ることができる。</p> </div> <p>●各学校の評価の基準になる児童の姿の例</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>A. 十分満足できると判断されるもの</p> <p>表と比べると数量の大きさの違いを一目でとらえることができることに気付いている。また、棒グラフから、数量関係を読み取っている。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>B. おおむね満足できると判断されるもの</p> <p>棒グラフから、一番多い、少ないなどの数量関係を読み取っている。</p> </div> </div>		

●評価の方法と視点

*ワークシートなどの記述内容と発表の様子

表や棒グラフから数量関係を読み取っているか。

*学習感想の記述内容

表や棒グラフにまとめることのよさに気付いて

いるか。

3 月	単元名	19 そろばんで計算しよう (2時間)	
	目標 そろばんによる数の表し方を知り、そろばんによる簡単な加減計算ができるようにする。		
	目 標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○そろばんの各部分の名称を知り、そろばんにおかれた数の読み方や数の入れ方、払い方を理解する。 ○そろばんを使った、加減の基本的な計算をすることができる。	3	・そろばんの各部分の名称を知り、そろばんに数を入れたり、払ったりする練習をする。 ※そろばんの使い方、数の読み方、数の入れ方、払い方をおさえる。 ◆そろばんを使って計算する活動 ・ $64+23$ 、 $70+48$ の計算をして、たし算の基本運珠の仕方、 $64-23$ 、 $70-48$ の計算をして、ひき算の基本運珠の仕方を知る。
(関)そろばんに興味をもち、十進数のしくみと関連付けてみようとする。 (考)5や10の構成をもとにした数の入れ方、払い方の合理的なしくみをとらえている。 (技)そろばんを使って簡単な加減計算をすることができる。 (知)そろばんを使った加減計算の仕方を理解している。			